

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171300680		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホーム七宗		
所在地	岐阜県加茂郡七宗町川並630-1		
自己評価作成日	平成26年12月20日	評価結果市町村受理日	平成27年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2171300680-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成27年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念に掲げている様に、利用者様自身にやっていただく事、選んでいただく事を大切に日々の介護を行っている。また、自然に恵まれた環境にあり、近隣の方のご好意でお茶摘みをさせていただいている。近距離の旅行の実施、馴染みの店や場所、人との関係等、入居してしまった事で、今まで普通に行ってきた事が制限されてしまったと利用者自身が思う事が1つでもなくなるように、利用者様の支援を行っている。梅干し作り、干し柿作り等の馴染みの風習や、花見、虫観賞等の季節を肌で感じられるような行事を大切にしている。へぼ飯やしし鍋等の郷土料理、その場で作って食べたり、自分で選んで食べたり、楽しみながら食事が出来るよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が運営するデイサービスセンターが敷地内にあり、ホームでの入浴支援が困難な利用者には、デイサービスセンターの浴室を利用する等、一体的な運営でサービスの質を維持している。職員は常に笑顔で明るく、利用者や家族と接する時には、コミュニケーションが良く取れており、信頼関係が出来ている。家族のホームに対しての評価が高く、それが職員のモチベーションにもつながっている。食事の献立に、行事食や郷土食などを積極的に取り入れて、家庭での食事に近づくようにしている。また、利用者が望む就寝前の入浴支援も取り入れ、サービスの質の向上をめざしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『自分でできること、自分で選ぶことをたいせつにする』という運営理念を事務所に掲示し、毎日介護を行う際に、何処まで出来るのか見極め、利用者様に実践していただけるよう心掛けている。また、それを地域とのかかわりに繋げられるよう心掛けている。	「自分でできること、自分で選ぶことを大切にす」を理念に掲げ、センター方式を導入して、利用者一人ひとりを知り、利用者の意欲を大切に、できることを一緒に行うということを、心がけている。それを、職員間で共有し、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園との交流会、町の図書館の利用、地域で開催される行事への参加、地元の店を積極的に利用し、少しでも多くの方々と交流が出来るよう心掛けている。	地元の高齢者が集う茶話会や、左義長祭りなどに参加している。町主催の生涯学習祭りにも、利用者と職員共同の貼り絵作品を出展したり、地元の人を事業所主催の夕涼み会へ招待するなどして、地域の一員として日常的に交流している。	地域とのつきあいを、さらに深めていくために、ホームが主体となり、地域包括支援センターなどの機関と協力しながら、ホームの様子とともに、認知症への理解が、地域に広がる取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や店等に出掛け、地域の方に認知症の理解をしていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様と触れ合う時間(行事への参加等)を設け、利用者様の心身の状態を知っていたき、その後、取り組み等の報告を行い、意見をいただいている。いただいた意見は日々の介護に活かしている。	会議は隔月に開催している。家族、行政、民生委員等がメンバーになっており、利用者の日常生活の過ごし方や、サービス状況を報告している。話し合いの中で茶話会や生涯学習祭りについて提案があり、地域行事の参加が実現するなど、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故や入退院、入退居の報告をしたり、毎月のホーム便りを届ける際には、近況報告をしている。	ホームの管理者が介護保険策定委員会のメンバーになっており、行政担当者と協力関係が出来ている。電話や訪問時に報告や相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にかかわるマニュアルがある。玄関、居室は見守りが十分に出来ない場合を除き、常に開錠している。万が一外に出られた場合でも、直ぐに呼び止めず、様子を伺い、必要に応じて言葉掛けを行っている。	母体法人が身体拘束ゼロ委員会を立ち上げていて、それに参加している。新任研修では、身体拘束について必ず取り上げて学習をし、全職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざれることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人でマニュアルを作成している。実践者研修受講者は虐待について学び、研修を受けた者が他の職員に伝達研修を行っている。虐待と見受けられる行為があれば管理者に報告するよう職員に伝えており、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在、活用しなければならない利用者様はみえない。職員は研修で学んでおり、研修を受けた者が他の職員に伝達研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、疑問な点があれば理解出来るよう説明を行っている。改定の際は、面会時や家族会の時に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情受付の案内を行ったり、面会時に伺っている。また家族会や運営推進会議で伺っている。	家族アンケートを、1年に1回行っている。また、家族に送る通信で、利用者のホームでの生活の様子を報告し、面会時には、職員が積極的に家族の声を聞くことに努め、利用者・家族の意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員会議を開催し、意見交換、意見・提案があれば話し合う時間を設け、反映させている。また、それ以外でも意見等有った場合、話を伺う時間を設けている。	月1回の職員会議では、居室担当者や他の職員から多くの意見があり、それらの意見や提案を運営に組み入れて、より良いサービスに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度終わりの自己評価も参考にして、職員の勤務状況を把握している。また、本人が希望する研修等あれば、参加出来るよう勤務を調整したり、家庭の事情を考慮し、勤務を組み、無理のないよう勤務が出来るようしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じた法人内の研修に参加したり、興味のある一般研修やセミナー等は参加出来るよう勤務の調整を行い、質の高いサービスが提供できるように努めている。研修を受けた職員は他の職員に伝達研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内には同業者がない為、法人内のグループホーム7カ所所で2ヶ月に1回、向上委員会を開催し、サービスの提供に関する意見交換を行っている。また、合同で行事を行い、交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時、利用者様や家族様から直接聞き取りを行い、入居してからは本人様と関わりながら、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症の症状を伺い、どんな事で困っているのか、また、どのような要望があるのか話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく伺い、利用者様、家族様の立場に立って、何が今一番必要な状況であるか見極め、助言、対応している。サービスの利用に当たっては上司に報告、相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日コミュニケーションを図り、お互いの生活習慣や行事を共有しながら関係を築き、また、常に学ぶ姿勢で介護にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただけるようお願いをし、家族様参加の行事を取り入れ、一緒に過ごしてもらう時間を設けている。毎月、近況報告をし、カンファレンスへの参加をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店へ買い物に出掛けている。また、隣接するデイサービスセンターを利用している知人や近隣に住んでみえる方との交流、地域の行事へ参加や、年賀状のやりとり等行っている。	馴染みの店での買い物、デイサービスセンターを利用している知人との交流、行きつけの美容院へ行く、年賀状を出す時の支援など、家族の協力を得ながら、関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合わない利用者様同士は、職員が間に入りトラブルを回避したり、会話が持てるようにしている。お互いに声を掛け合って、下膳や掃除を行う姿も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退居後も、必要に応じて利用者様の情報を交換し、また、エリア内の特別養護老人ホームに入所された場合、訪問し、様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望は本人様の毎日の記録やケアプラン等に記録し、職員全員が把握できるようにしている。把握困難な方に関しては、これまでの生活状況や身近な方から情報を得、見つけるように努めている。	本人のやりたいこと、行きたいところ等、利用者の日常生活の中で、知り得た情報を「申し送りノート」に記入し、職員全員で、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を一部活用し、情報を収集している。毎日の会話の中からもだけでなく、家族様や面会にみえた知人からも収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気付いた事は、本人様の記録に残し、状態の変化がみられる方は、常に申し送りを行い、職員全員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様が面会にみえた時に話を伺ったり、出来る限り、本人様、家族様にもカンファレンスに参加していただいている。モニタリングは毎月居室担当が行い、担当者は他の職員や関係者の意見も取り入れるようにしている。	家族がケア検討会の話し合いに参加し、直接希望を聞いている。歯科医や栄養士など、必要な関係者の意見も取り入れ、利用者本位の介護計画を作成している。モニタリングは居室担当が行い、全職員の意見も取り入れ、利用者の状態に応じて、計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員それぞれが、その日の状況、気付いた事や、工夫も記録している。必要に応じて会議で話し合い、情報を共有、実践や介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様に代わって、受診の付き添いや、利用者様の個人的な外出の送迎を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本が好きな利用者様には、地域の図書館を利用していただいたり、町の社会福祉協議会が企画する、地域茶話会にそれぞれ参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居前にかかっていた地元のかかりつけ医がほとんどで、家族様の希望によっては定期的に往診していただいている利用者様もみえる。また、緊急時に往診をお願いする時もある。定期的に訪問歯科にかかっている方もみえる。	利用者は、これまでのかかりつけ医への受診を継続しており、受診は家族が行っている。家族の受診が困難な時は、職員が同行して、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師がいない為、隣接するデイサービスセンターの看護師に相談したり処置を行っていただいている。また、エリア内のグループホーム担当の保健師に相談している。往診時に相談する事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院である木沢記念病院の地域連携室の職員と連絡を取り、情報交換している。また、他の病院でも担当者と連絡を取り、早期退院に向けて努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態変化には、家族様、主治医との連絡を密に取り、今後の対応の方針、緊急時の対応を相談。家族様と話し合い、利用者様、家族様の意思を確認を第一に支援している。また、重度化した場合にも、意向を重視し、主治医の診断に従い支援している。	ホームでの看取りは行っていない。利用者の状態が重度化してきたときは、主治医と家族が、十分に話し合いを重ねている。ホームで出来る支援の範囲を伝えて、利用者と家族が納得し、不安のないように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回、隣接するデイサービスセンターとの合同防災訓練を行っている。常勤職員は毎年1回の救急救命講習に参加し、訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜の防災訓練を行っている。メールによる一斉通信が出来るようになった。防災訓練には、近隣の方に実施の案内をし参加を呼び掛けている。	避難訓練は、同じ敷地内にあるデイサービスセンターと協力し、より安全な避難に取り組んでいる。メールでの職員召集から訓練を始めている。行政職員の参加もあり、今後は、地域代表や家族の参加も予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の言葉掛けは近くで小声で行ったり、更衣時は居室の戸を閉めたりしている。何か失敗されても何気なくフォローするよう心掛けている。また、居室で自由に過ごす時間も大切にしている。	職員は、利用者一人ひとりが人生の先輩であることを、いつも意識して言葉かけを行っている。トイレ誘導時は、他の利用者に気づかれないように耳元で伝えたり、着替え時には、部屋のドアを閉めるなどの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	運営理念を念頭におき、日常生活の中で自己決定出来るよう、食事のメニューや外出先等、希望が洗わせるような言葉掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の心身の状況を把握し、本人の意思を確認し、コーヒータイムや昼寝、入浴等、本人の意思を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に移動美容室を利用し、毛染めやパーマ等、本人の希望で行っている。以前から使用されていた化粧品を継続して使用される方もみえる。普段着や外出時の衣類も出来る限り選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	エリアの栄養士が作成した献立に利用者様の好みや希望、旬の食材を使用、郷土料理を取り入れ、それを話題にしながら食事が出来るようしている。その場で作りながら、また自分で取り分けた食べたり出来るような献立も取り入れている。個人の能力に合わせ、調理や片付けを行っている。	利用者の好みや希望をいれた献立に配慮し、旬の食材を使用した郷土料理も取り入れている。利用者と職員が談話しながら、楽しく調理や片づけをしている。職員持参の食事内容を見て、「食べたい」と利用者が言えば、次回に提供している。鯉の「解体ショー」も計画されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量は記録し、量を調整。個々に合わせ、食事量や形状を変えている。水分摂取量の少ない方には好みの飲み物を提供し、時間をおいて勧めている。エリア内の栄養士に、変更した献立表を提出し、栄養バランスをチェックしてもらう。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、能力に応じた支援をしている。個々に合った道具を使用し、義歯の方は週に1回、義歯洗浄剤を使用している。粘着きが気になる方はこまめにうがいをしている。ほとんど方は訪問歯科による検診とケアを定期的に受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日の排泄時間を用紙に記入し、出勤職員が情報を共有し、個別に排泄対応している。失禁の量に応じて下着やパッドの種類を変え対応している。基本見守りをし、必要以上に介助を行わないよう心掛けている。	利用者一人ひとりに合った排泄のパターンや習慣に合わせて対応をしている。利用者の排泄状況は、適宜家族に伝え、適切な排泄用品で利用者が安心して暮らせるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かす機会を増やす為に、下膳や掃除、散歩等行っている。水分補給をしたり、朝食時に乳製品を取り入れる等、飲食の方の工夫をしている。それでもスムーズな排便がみられない方は、医師に相談し、下剤や坐薬で対応し、定期定期に排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	昼夜入浴時間を設け、本人の希望を伺い毎日、また夜間入浴される方もみえる。浴槽に浸かれない方は足浴を行っている。菖蒲や柚子、みかんの皮等を入れ、季節を感じていただいたり、臥床時間をふまえ入浴順を決め、ゆっくり入浴できるよう心掛けている。	夜間入浴を希望している利用者にも対応しており、夜7時頃の入浴支援を実践している。ホームの浴槽の利用が困難な人は、デイサービスセンターを利用し、利用者個々の状態に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前午後を問わず、自由に臥床していただいている。室内の温・湿度・明るさも個々に合わせ調整し、不快感を与えないようにしている。ソファで居眠りされていても、無理に起こしたりせず、膝掛け等を掛け、風邪を引かない程度にそのまま休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに処方箋を綴り、処方箋に変更があった際は申し送りをし、直ぐに新しい情報(蛍光ペンで分かりやすく)が得られるようにしている。変化がある場合、記録と申し送りを指示してある。服薬のマニュアルを作成し、確実に服薬出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の趣味や仕事等の情報を得、野菜や花を育てたり、希望で知人やお菓子を買いに出掛けている。俳句をされていた方には、俳句の会を開き、毎日コーヒーを飲用されていた方にはコーヒーを出している。個々に合わせ、掃除や調理、洗濯等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調や希望にそって、気候の良い日は散歩に出掛けたり、買い物、ドライブ等個々の希望にもそえるよう努めている。家族様にもお願いし、外出する機会を設けている。それぞれが行きたい場所を伺い、個々に出掛ける外出行事も企画している。	利用者の体調や、天候に応じて散歩に出かけており、個別外出は、家族の協力も得て、利用者が望む場所に行っている。年間の外出計画では、マイクロバスを利用し、施設長の運転で花見や、紅葉ドライブなどに、利用者全員と職員が一緒に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は少額を事務所に管理している。スーパーでの買い物では、利用者様に支払いをお願いしている。外出の際には個々のお金を持参し、欲しい物を購入していただき、自分で支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも利用出来るようになっている。電話を希望される方には職員が傍で支援し、話をさせていただいている。また、暑中見舞いや年賀状を家族様に送ったり、面会のお礼を電話や手紙で伝える方もみえる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ばかりでなく、浴室・トイレの温度管理にも気を付け、不快にならないようにしている。同じような扉ばかりの為、浴室・トイレ・居室を間違えやすい方の扉には、大きな字の張り紙をしている。四季に応じた花や飾りつけをし、季節感を出している。毎週月曜日に湿温チェックを行っている。	共有スペースは、天井が高く、フロアも広くて明るく開放的である。利用者と家族、職員が力を合わせて作った花もちが飾ってある。壁にも、利用者と職員が作り、地域行事にも出展した貼り絵も飾ってあり、家庭的で温かみのある共有の空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にも椅子、ソファを置き、いつでもくつろげるようにしている。また、居間の棚にはいつでも利用者同士で使用出来るように本や折り紙、ボール等の余暇道具を置いてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、使い慣れた物や、出来るだけ今ままで本人の部屋に飾ってあった物、大切にしていた物を持って来ていただくようお願いしている。また、居室担当者が利用者様と一緒に写真や作品を飾ったりしている。	使い慣れた筆筒や仏壇など、馴染みの物が置かれている。家族に加湿器を持ってきてもらい、利用者の健康管理に配慮している。家族写真には、利用者との続柄を家族に記入してもらい、利用者の心の安定につなげたり、居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており、居室が分からない方や、トイレや浴室には大きな字の張り紙をしている。居室の棚には本や歌詞カード、ボール等余暇の道具を置き、いつでも使用できるようになっている。日付が分かるよう大きな日めくりを掲げている。		